

(仮称) 学び・交流プラザ 整備基本構想 【概要版】



平成 22 年 10 月

周南市

(仮称) 学び・交流プラザ整備事業の位置付け

- ・新市建設計画の「21のリーディングプロジェクト」に掲げられた事業です。
- ・周南市まちづくり総合計画 後期基本計画・・・重点推進プロジェクトの一つに「人財立市」プロジェクトを掲げ、まちづくりを
実践する人材を発掘、育成するための取り組みの一つとして、本整備事業を位置付けています。
- ・第2期生涯学習推進プラン・・・重点プロジェクトの一つに「学びの拠点づくりプロジェクト」を掲げ、その具体的な取り組みと
して本整備事業を位置付けています。

検討の経緯

- ・平成18年10月:新南陽地区地域審議会からの意見具申 ……「学び・交流プラザ整備事業の計画策定の推進について」
- ・平成19年度 :教育委員会内部に検討委員会を設置・・・機能や規模等、基礎的な事項について調査・検討
- ・平成21年度 :「生涯学習推進本部 学び交流プラザ整備検討幹事会」における検討
 - ・「(仮称)学び・交流プラザ整備基本調査」の実施
- ・平成22年度: ・「(仮称)学び・交流プラザ整備検討ワーキンググループ」の設置・部局間の調整や連携を深めた詳細な検討
 - ・市民説明会(8/13)、パブリックコメント(8/1～8/31)等の実施

本書は、これまでの調査や検討、パブリックコメント等を踏まえ、(仮称)学び・交流プラザ整備に向けての基本的な考え方や整備方針を、「基本構想」としてまとめたものです。

< 1. 基本理念 >

【基本コンセプト】

『集い 学び 育む 人とまちの創造拠点』

～ 笑顔 と 賑わい に満ちた 新しい周南の 風 を起こす館 ～



「**集い**」: 永源山公園の麓に位置する好立地条件を活かした、幅広い世代の市民が気軽に集い、多くの **笑顔 と 賑わい** に満ちた交流の場とします。

「**学び**」: 市民、行政、高等教育機関、NPOなどによる学びのネットワークの構築による地域の「知」が結集する仕組みづくりをすすめ、学びたいことをいつでも気軽に、楽しく学ぶことができる学習環境を整備します。

「**育む**」: 学習相談や学習支援の仕組みを整備し、まちづくりを実践する人を育む施設とします。

「**人とまちの創造拠点**」: 人と人が繋がり、地域コミュニティの推進や市民活動の促進など、新しい周南のまちづくりの **風** (気運) を起こし、人とまちの活性化に寄与する施設を目指します。

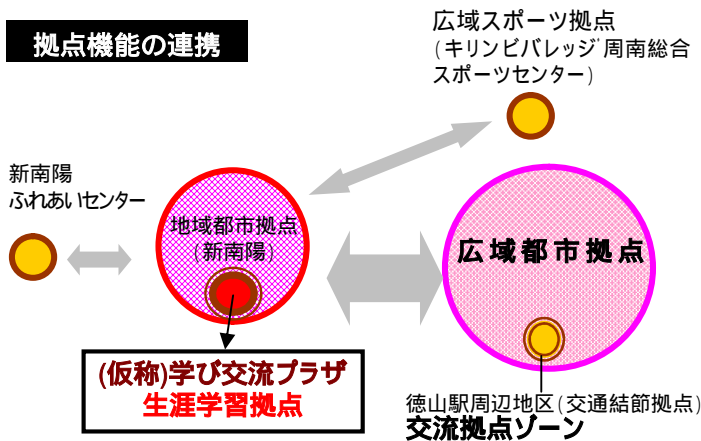
新しい 周南のまちづくりへ!

【基本方針】 ～ (仮称) 学び・交流プラザの三つの場づくり～

主体的な学習を支える場づくり = 学びの場
 多様な交流を促す場づくり = 交流の場
 学んだ成果が発揮できる場づくり = 発揮の場 (学びと交流の相乗作用により創出)

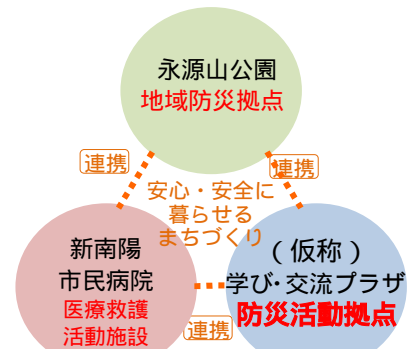
< 2. 果たすべき役割 >

拠点機能の連携



他の拠点機能・施設との役割を分担し合うとともに、拠点間の機能連携を深めます。

防災活動拠点としての役割



永源山公園、新南陽市民病院、(仮称) 学び・交流プラザが連携し、安心・安全に暮らせるまちづくりの役割を發揮します。

良質な景観形成の役割

人と車を分離し、緑にいだかれた、文化の香りあふれる、良質な景観の創造に努めます。

< 3. 主要な機能 >

- (1) 生涯学習機能 / 生涯学習センター・公民館
本市の生涯学習の中核となる生涯学習センター機能と、地域の学習施設としての地区公民館機能を一体的に整備します。
- (2) 図書館機能
親子連れをはじめ、誰もが気軽に気兼ねなく立ち寄れる地域図書館として、機能を拡充します。また、情報提供機能やレファレンス機能の拡充、利便性の高い先進的なシステムの導入等を目指すとともに、生涯学習機能との連携に努めます。
- (3) スポーツ振興機能 / 体育施設
武道のできるスペースを備えた、地域スポーツ施設として整備します。また、災害時の避難場所としての機能を踏まえた施設とします。
- (4) 創造・鑑賞機能 / ホール
講演会や発表会等、市民主体で使いやすいホールを計画します。
- (5) 情報・交流機能 / 共用スペース
交流スペース、子どもコーナー等、市民の交流空間を整備します。また、災害時における情報や行政情報をはじめ、さまざまな情報の受発信機能を備えます。



< 4.施設整備の留意点 >

(1) 施設・機能の複合化

施設や機能の複合化により、効率性や機能性の向上と賑わいの創出を図ります。

(2) ユニバーサルデザイン

施設ゾーニングにあたっては、「ユニバーサルデザインの7原則」に基づき、段差の無い施設構成に留意することをはじめ、ゆったりしたエレベーターの設置等、誰もが安心・安全で利用しやすい施設とします。

【ユニバーサルデザインの7原則】

- 「誰にでも公平に利用できること（公平性）」
- 「使う上で自由度が高いこと（自由性）」
- 「使い方が簡単で、すぐ分かること（分かりやすさ）」
- 「必要な情報がすぐに理解できること（分かりやすさ）」
- 「うっかりミスや危険につながらないデザインであること（安全性）」
- 「無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること（使いやすさ）」
- 「アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること（使いやすさ）」

(3) 低炭素社会への対応

低炭素社会の実現を目指し、二酸化炭素排出量削減など環境負荷を低減するための施設整備に取り組みます。

省エネ型の空調設備や照明器具等の設置、太陽光発電の利活用等を十分考慮し、節水型で地球環境にやさしい施設整備に留意します。

【環境負荷低減の取組例】

省エネルギー機器	太陽光発電	屋上緑化	自然通風
自然採光	雨水利用	高断熱高気密	地熱利用
植栽計画	型枠削減	自然素材	

(4) 維持管理費低減への配慮

公共施設の維持管理費の低減は、財政の健全化を進めるうえで必須条件です。

施設整備にあたっては、機能的なまともとともに、管理動線の効率化や視認しやすいレイアウト構成を念頭に設計を進めます。

機能的で使いやすい施設づくり.....耐久性の高い素材の検討
省エネルギーに配慮した施設づくり...メンテナンスしやすい材料の検討
維持管理が容易な計画.....効率的に運営できるゾーニング

(5) 周辺施設との連携

中央公園 本整備施設の前庭的な役割を有する公園として、機能の連携を図ります。
東江田公園(勝栄寺土塁及び旧境内) 生涯学習資源としての活用が期待されます。
新南陽市民病院 本整備施設の予備的な駐車スペースとしての活用を検討します。

(6) 地場製品の活用

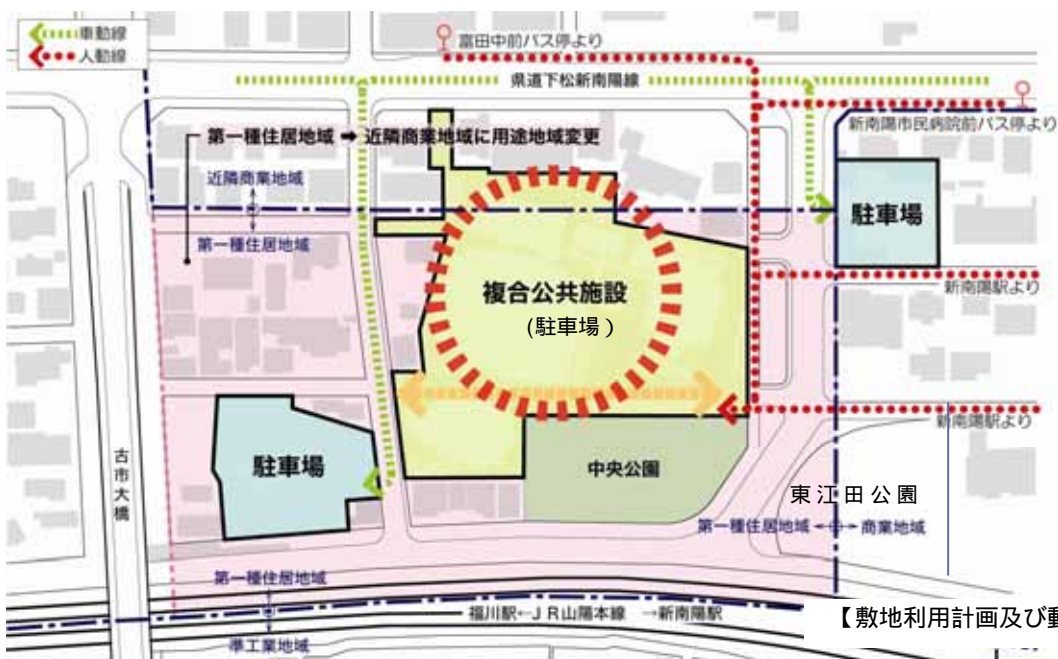
地場産品を活用し、人に優しく温もりのある施設整備に留意します。

< 5.本整備地の活用方針 >

本整備地は、現在、「第一種住居地域」に指定されており、複合公共施設の建設が可能な、「近隣商業地域」への用途変更を進めます。

本整備地内の建物は全て解体撤去します。

分散した敷地の中で最もまとまった広さを持つ中央の敷地に、複合公共施設として建設します。



【敷地利用計画及び動線計画図】

< 6.構成施設の内容と規模 >

施設構成や規模等は今後の基本設計・実施設計の中で、詳細な内容や適正な規模について検討を深めます。

(1) 施設構成と施設内容

機能	仮施設名称	主な施設内容
生涯学習機能	生涯学習センター 新南陽公民館	生涯学習情報スペース、学習相談・支援コーナー、視聴覚室、調理実習室、各種会議室、作業室、音楽室、和室、陶芸室等
図書館機能	新南陽図書館	図書閲覧室、児童コーナー、親子読書コーナー、AVコーナー、インターネットコーナー、新聞・雑誌閲覧コーナー、閉架書庫、移動図書館車庫等
スポーツ振興機能	新南陽体育館	アリーナ、観覧席、武道場、器具庫等
創造・鑑賞機能	ホー ル	客席、ステージ等
情報・交流機能	(共用スペース)	交流スペース、子どもコーナー、情報コーナー等

(2) 想定規模

単位：㎡

現状施設と規模				新たに整備する施設と想定規模		
施設名	延床面積	うち主要機能スペース	附属スペース	仮施設名称	主要機能スペース	附属・共用スペース
生涯学習センター	340	60 (学習コーナー)	280 (会議室、事務室、応接室、トイレ他)	生涯学習センター 新南陽公民館	1,400㎡程度	3,000㎡程度 施設の複合化により トイレ、エントランス、通路等の共用スペースを、効率的に集約します。
新南陽公民館	1,693	845 (各種会議室、調理室、和室他)	848 (廊下、入口、トイレ他)			
勤労青少年ホーム	1,070	500 (軽運動室、調理室、音楽室、和室他)	570 (廊下、階段、休憩室他)			
社会文化ホール	624	432 (客席288、ステージ144)	192 (トイレ、ホワイエ他)			
新南陽図書館	1,635	829 (開架、児童、新聞コーナー、閉架他)	806 (研修学習室、事務室、会議室他)	新南陽図書館	1,000㎡程度	
新南陽体育館	2,682	1,263 (アリーナ部分)	1,419 (ステージ186、トイレ、入口、倉庫他)	新南陽体育館 (武道場を含む)	1,600㎡程度	
新南陽武道館	1,087	390 (柔道場:195、剣道場:195)	697 (ピロティ-450、トイレ、入口他)			
計	9,131	4,319	4,812	計	4,400㎡程度	3,000㎡程度

(3) 駐車スペース

効率的で安全性の高い車動線を考慮し、従来の駐車台数(155台)を拡充させた駐車スペースを、本整備地内に適正配置します。

イベント開催等により不足する駐車スペースについては、近隣施設(新南陽市民病院、富田中学校)の活用や公共交通機関の利用促進について検討します。

< 7.概算事業費 >

建設費：26億5000万円
解体費：1億6000万円
調査委託費：1000万円
設計監理費：1億8000万円
総事業費：30億円

< 8.事業スケジュール >

平成22～23年度……設計(基本設計・実施設計)
平成24～25年度……解体・建設
平成26年度……開館